

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和7年1月9日

協議会名： 坂井市地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容及び結果概要を記載】</p>	<p>A・B・C評価</p> <p>【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】</p>	<p>【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】</p>
<p>【市内の公共交通の現況整理、上位・関連計画の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人口、高齢化率等の分布について整理、公共交通の主要な利用目的及び通学・通院・買い物などの日常生活行動の目的地となる各種施設の分布を地図上で整理し、位置関係を整理。 ・市内に運行する公共交通ネットワークについて、運行本数、時間帯、運賃等のサービス内容を整理。 ・既往乗降調査及び関連データを基に路線別利用者数、運行経費等公共交通の利用及び事業の実態を整理。 <p>【市民ニーズ調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の交通に関する移動実態を把握するため、市民アンケートを実施(既往アンケート含む)、市民の移動ニーズやバス交通等に対する改善要望等を整理、把握。 <ul style="list-style-type: none"> ○市民アンケート調査 ○高校生移動実態調査 ○オンデマンド型交通利用登録者アンケート(既往) ○高齢者聞き取り調査(～3月実施予定) <p>【地域公共交通計画の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年1月以降、現況整理やニーズ調査をもとに、市域全体における公共交通が抱える課題を詳細に分析し、方向性を検討、将来の本市の各公共交通の役割分担と将来ネットワークのイメージにまとめていく。 <p>【地域公共交通会議の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂井市地域公共交通計画の策定に向けた関係者協議のため、坂井市地域公共交通会議(法定協議会)を開催。 ・実施回数4回(令和6年6月、8月、12月(書面)、1月(予定)) <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、基本方針にもとづく目標の設定(定量的評価指標)、目標達成のために実施する事業(個別施策)等について検討を進める予定。 ・計画策定時期:令和8年3月を予定。 	<p>A</p> <p>令和6年10月に路線バスの大幅な減便が実施され、アンケート調査について当初予定の約2か月後倒して実施することとなったが、概ね当初のスケジュール通り順調に進捗している。</p>	<p>補助対象事業の名称及び内容</p> <p>【名称】 坂井市地域公共交通計画策定事業</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市内の公共交通の現況整理、上位・関連計画の整理 2. 市民や利用者のニーズ調査 3. 地域公共交通計画の検討 4. 地域公共交通会議の開催 <p>補助対象事業の着手及び完了予定日 着手予定日:令和6年7月11日 完了予定日:令和7年3月19日</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月9日

協議会名:	坂井市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は、県都福井市の北部に位置し、南北約17km、東西約31kmにおよぶ東西に長い行政区域を持ち、人口約8万9千人、面積は約210km²である。市域の中央部には坂井平野が広がり、東部には中山間地域、西部には砂丘地および丘陵地が広がっている。交通状況は、東部には北陸自動車道や国道8号、国道364号、西部に国道305号が、中央部にはJR北陸本線、えちぜん鉄道三国芦原線がいずれも南北方向に縦断している。このように、主要な交通は南北方面を中心に比較的充実している一方、東西方向は基幹となる交通網が脆弱である。本市は平成18年に旧坂井郡の4町が合併して誕生した経緯から現在も旧町単位での市街地が東西に分散しているが、公共交通による旧町各市街地への東西の移動は主にバス路線が担っている現状である。</p> <p>令和3年3月に策定した計画では、大きな施策として、「市民ニーズに基づいたコミュニティバス路線の再編」に取り組み、市内の公共交通の主な利用者である高齢者と高校生のそれぞれのニーズを整理・分析し、コミュニティバスをオンデマンド型交通へと転化、一部は路線バス化し、市内の輸送手段の大幅な変換を図った。改編1年を経過し、オンデマンド型交通に関しては利用者満足度が高く、乗車数が伸びている一方、現状では公共交通利用者全体の増加に結びついたとは言い難い現状である。</p> <p>併せて、令和6年3月に北陸新幹線が福井県内に延伸開業したことに伴う短期滞在者の視点での取り組みや、駅等の機能向上を含めた交通サービスの改善、交通分野における人材不足への対応、DX化の進展など、新たな課題が生じていると認識しており、現状の再整理と目標及び指標の再検討が必要となっている。</p> <p>新たにオンデマンド型交通を加えた市内の輸送資源を包括した公共交通のあり方について検討するため、改めて策定調査と課題整理を行う。</p>